

中国での語文教育

裴 崢

目 次

- 1 語文教育の役割
- 2 語文教育の新大綱
- 3 どのように教えるか
- 4 教材の扱い方

私は日本語を勉強する立場から、日本の文学作品に着目し、文学作品を教材とする授業に興味と関心を抱いた。芥川龍之介の『蜜柑』、井伏鱒二の『山椒魚』、『鯉』、『屋根の上のサワン』、安岡章太郎の『驢馬の声』を教材として取り上げた。優れた文学作品に触れることで、私たちは自分では体験できないことを学ぶ。人生の多様な美しさ、悲しさを味わうことができる。

私は、日本での国語教育に相当する中国の語文教育について勉強した。中国ではどのような文学作品が、どのように読まれているのか。どのような指導がされているのか。そしてどのような効果をあげ、みんなが語文を楽しめるような指導はどのようにすればいいのだろう。

1 語文教育の役割

日本での「国語」のことを中国では「語文」という。「語文」という言葉は新中国になってから使われている。「口頭言語と文章言語」¹⁾という両方の意味を含んでいる。

¹⁾ 高恵莹, 麻鳳鳴主編『小学語文教学法』(北京師範大学出版社), 1981年, 9ページ参照。

語文教育は、初めソ連の影響を大きく受けた。教師中心、授業中心、教材中心という三中心教育だった。知識を伝達して、すぐ役立つ人材を少しでも早く育てることを目的にしたため、建国や国民経済発展の初期の段階には効果があった。しかし、80、90年代に入って、改革開放の政策により、中国の社会主義市場経済が急速に発展したことで、三中心教育で育てられた人材だけでは社会の需要は満たすことは難しくなった。

語文の教科書は、これまで政治的な内容のものが多かった。歴史を階級闘争としてとらえるため、支配者を悪者として扱い、労働者は美化する傾向があった。

私は小学校4年生の時に、『為了六十一個階級弟兄』（『働く仲間六十一人の為に』）という作品を学んだ。辺地で働く61人の労働者が食中毒になった。共産党は飛行機で患者を都市の病院に運び、命を助けた。この作品を学んだ時、私は61人の命が救われたのは共産党と社会主義社会のおかげだということに疑いもなかった。

この作品は教材として今も使用されているが、最近ある教師は児童から、次のような質問された。「働く仲間でなければならぬのですか。働く仲間でなければ、助けられなかったのですか。働く仲間だけが、共産党の援助を受けられるのですか」。その教師は「働く仲間」ではなく、農民たちとか、道路坑夫など、ととっと具体的に表現した方がいい、と言っている²⁾。

97年3月6日、山東省済南市付近のレンガ工場で、59人の労働者が食中毒になった。解毒剤を他の都市から送ってもらい、全員が助かった。この記事が新聞に載った時、『為了五十九個兄弟姐妹的生命』³⁾という題名だった。

61人の時は「階級弟兄」だったが、97年には「兄弟姐妹」になっている。労働者として美化するよりも、人間の命そのものを表現している。

²⁾ 朱司亭、元偉亭「語文教材中的『左』」（『語文學習』、上海教育出版社）、1994年6月、8ページ。

³⁾ 「為了五十九個兄弟姐妹的生命」（『人民日報』海外版）、1997年3月22日。

語文の教材は、人類の素晴らしさを表現し、歴史の検証に耐えられるような作品が望まれる。物事の是非、価値を判断する子どもの能力を育てる必要があるのだ。幅のない「階級弟兄」だけを主役とする、紋切り型の教材では、これからの社会に適応する人材を育てるのは難しいと思う。

語文教育には、知育に偏っている教材が多いようだ。家庭教育でも、この傾向が強いから、教師は知育偏重にならないように努力している。

小学校1年生の語文授業で、「今日の御馳走はとりの丸焼きです。ふとももは誰が食べますか」と児童に質問した教師がいる⁴⁾。40人の児童は「私が食べる」、「小さい方をパパにあげ、私が大きい方にする」、「私がふとももを全部食べる」とわれさきに答えた。そこで、教師は2人の児童をみんなの前に坐らせて、食事のマナーを演じさせた。食卓を用意した2人は、まず両親を坐らせ、ご飯を渡してから、自分たちが席につく。そして両親から食べ始めるように演じさせた。教室で食事のマナーを勉強させ、親を大事にする徳育をも目指す教師の苦心と苦労が伝わってくる。

上海のある教育研究機関が数年前、数千人の小、中学生にアンケートした。その結果、「品德欠乏症」が家庭にはびこっていることが分かった。アンケートによると、親は子供に学校でも社会でも強い人間になるように求める一方、社会の公益活動をできるだけ避け、自分の勉強に励むようにと示唆する。学校にいい評価を貰うため、教師の前で、教師に気に入るように振る舞えと子供に教え込む親もいる⁵⁾。

こうした傾向を是正するためだろうか。小学校5年生が使う「中小學九年義務教育各科同歩・單元練習冊叢書」の中に次のような練習もある。

⁴⁾ 王宝弟「讓孩子從小懂禮儀——記吳淞區小學生“心理和行為”養成教育」(『文匯報』), 1987年6月21日(『語文學習』, 上海教育出版社, 94年6月, 6ページ再引用)。

⁵⁾ 『星島電子日報』, 1995年12月11日。

人の役に立ちたいという張微さんの優しさを表現するには、次のどの事例が適切なのか。○を付けてください。

- 1 ある日、張微さんは買物をした際、余分に貰ったお釣りを店員に返した。
- 2 張微さんは、毎日決まって家事を手伝う。床をきれいにしたり、鶏に餌をやったりして、忙しい。
- 3 先生に頼まれた仕事は、張微さんはいつも立派にやり遂げる。
- 4 家に帰る時に、張微さんは、道に迷って、泣いている隣村の男の子を家まで送って行ってあげた。
- 5 張微さんは、目の悪い同級生に自分のいい席を譲りたいと先生に頼んだ。
- 6 同級生が張微さんの筆箱を落とした。万年筆が壊れた。しかし、張さんは怒るどころか、「気にしないで」と却って相手に気を使った⁶⁾。

人のために役に立とう、困っている人を助けよう。そのために、自分は何れほどのことが出来るのか。子どもに考えさせたい問題だろう。「1」は正直、「2」は勤勉、「3」は実行力、「4」は親切、「5」は思いやり、「6」は寛容をそれぞれ現している。相手に対して、積極的に役に立つことと関連しての表現は「4」と「5」だ。しかし、○をつけて、なんの意味があるのか、どんな教育の目的なのか、なんのためにこのような問題を作ったのか、わからない。

語文を勉強することで、人の心、世の中の動き、歴史や体験できないことを多く学べる。張さんのようないい子になるために語文を勉強するのではない。自然とどう調和し、人間同士がどう仲良くしていくかを学ぶことが重要だ。

⁶⁾ 北京市海淀区教師進修学校編『小学語文同歩 第九冊』（北京師範大学出版社）、1995年、28ページ。

2 語文教育の新大綱

中国では1987年、義務教育法が公布された。この法律には、適齢の全児童は一定年限の教育を受ける権利が明記された。92年の調査では、小学生は1億3千万人いて、1億1千万は農村にいる⁷⁾。この内、まだ就学できない子どもも多い。

中国では日本と同じように小、中学校9年間の義務教育が実施されている。小学6年、中学3年の「6・3制」だが、北京、上海など一部の地域では「5・4制」（小学5年、中学4年）が実施されている。全日制の9年義務教育には国が定めた授業計画と教育大綱がある。国家教育委員会が計画し、編纂した人民教育出版社発行の教科書が一番広く使われ、全国の90%を占めている。教科書には、国家教育委員会の審査を経て、上海市、四川省、広東省、浙江省及び北京師範大学などが独自に作っている。

カリキュラムは、鄧小平の「教育は現代化へ、世界へ、未来へ向けて（教育要面向現代化、面向世界、面向未来）」という戦略方針に基づいている。小学校では思想品格、語文、数学、社会、自然、体育、音楽、武術、労働の9科目が設けられる。可能なら、4年目から外国語（英語、日本語、ロシア語）も教えることができる。

中学校の語文教育の目的について、「教育大綱」には次のように書かれている。

語文学科は基礎学科の一つだ。語文学科は、学生 の 思想道徳や科学文化の素質を高め、他の学科を学び、将来の仕事や生涯学習のため、また中華民族の優れた文化を高揚し、人類の進んだ文化を学び取り、国の近代化を促進し、民族の質を高めるためにも、重要な意義を持っている（語文学科は一門基礎学科。語文学科、对于学生提高思想道徳素質，科学文

⁷⁾ 霍懋征「着眼于提高民族素質的好教材」、『人民教育』（中国教育雜誌社）、1992年10月、42ページ。

化素質，对于学好其他学科，日後工作和繼續學習，对于弘揚中華民族優秀文化和吸收入類的進步文化，促進国家現代化建設，提高民族素質，都具有重要意義⁸⁾。

この「教育大綱」にもとづいて、国家教育委員会は、語文教育は、将来、言語学、文章学、文学という三つの柱にすることを決めている。

私は語文教育を通して、子どもたちが分析の力、解決の力を身につけ、視野を広げ、知識を増やし、受容性を養い、個性と長所を伸ばすことを期待したい。こうした状況の中で、私はこれまでの語文教科書の文学作品を分析し、これからの時代に相応しい教材を見つけたい。

語文教育が占める重さを理解するため、ここで北京第七中学校1年生の1週間の時間割を見てみよう。

	1	2	3	4	5	6	7
月	外国語	地 理	語 文	数 学	昼 政 治	計 算 機	体 育
火	外国語	数 学	計 算 機	歴 史	休 美 術	政 治	語 文
水	外国語	語 文	数 学	音 楽	み 数 学	地 理	自 習
木	外国語	外国語	体 育	語 文	数 学	生 物	自 習
金	政 治	数 学	生 物	語 文	語 文	歴 史	自 習
土	休 み						
日	休 み						

1週間で35時限（1時限は50分）で、言語についての授業は、語文が6時限、外国語は5時限、合わせて11時限だ。札幌の場合、ある公立中学校1年生の1週間当たりの時間割は、週に30時限（2時限の学活道徳と1時限のクラブ活動を含む）で、そのうち国語は5時限、外国語は3時限だ。

⁸⁾『語文教学通訊』（全国中語会会刊出版社）、1996年4月、6ページ再引用。

3 どのように教えるか

語文授業は、一般に本文を1回読んでから段落に分け、小見出しをつけ、全文の概要をまとめさせ、いわゆる主題を見つけさせる。このような授業では、子どもはいつも受け身で、主体となる面白さがない。当然、作品の分析力や理解力は高まらないことが多い。

語文教育を研究している章熊は、こうした状況について、次のように指摘している。

わが国は、従来から文章の完備性に注目し、首尾一貫、起承転結、鮮明な段落を強調し、筋が通り、表現が明らかで、文章の様式にこだわる。(中略)そして“文章段落の分析”もわが国の語文教育の主要な内容と特色になった。しかし、様式にこだわり過ぎ、しいてはそれを定型化しようとする、硬化しがちだ。(中略)すべて一様に“テーマ”、“段落の意味”と創作特徴の分析を求めることは、今日語文教育のパターンとなった〔我国一向注重文章整体的完整性，強調有頭有尾，起承転合，層次分明，注意來龍去脈，交代清楚，注重文章的模式。(中略)而“章法分析”也就成為我國語文教學的主要內容和特色。然而過于注重模式，甚至力求使之定型化，就容易僵化，(中略)千篇一律的“中心”，“段意”的格局和千人一面的寫作特點的分析，形成了今日語文教學的“八股”〕¹¹⁾。

語文教育の目的は、子どもに文章を理解、分析し、状況を判断する能力を高めることにある。煩雑な概念や術語にとらわれすぎると、目的を果たすどころか、児童生徒は語文嫌いになってしまう。児童生徒の意欲を高め、学力を向上させるには、教える側が、児童生徒の主体を重んじ、その弱さや苦しみに共感し、自らを高める力を身につけさせなければならない。情報を客観的に把握し、的確に読み取る能力、自分の考えを論理的に展開する力を高め

¹¹⁾ 章熊「対当前語文教學的一些看法(當面的國語教育に関する考え方)」、『人民教育』(中国教育雜誌社)、1992年6月、35ページ。

るのだ。

語文教育の大きな目標は、子どもの言語能力を高めることだ。言語能力の訓練は、文法事項だけではなく、教材としての作品を通して、表現を理解できる授業を工夫しなければならない。その表現は優れているのか、どこが優れているのか、わかるような指導をすべきだ。表現の正確さ、見事さを認識することは難しいが、表現やニュアンスの微妙な違いを理解し、作品世界の特質を味わう。いわば、作品の特質、固有世界を読み出すことを目標とする。

作品世界を理解するには言葉を分析し、その表現の意味、膨らみを味わわなければならない。授業では、こうした指導を意識的に重ねて、子どもが豊かな表現を少しずつ身につけていくことを目指すべきだろう。

文脈や表現から作品の「鍵」を読み取り、その作品の意味を理解していくような指導に努めたい。文学作品に何を求めるかについて、広瀬節夫は次のように述べている。

われわれは、一つには想像の世界に遊びたいという願望から、もう一つには現実の世界を見極めたいという欲求から、小説を読むものである。言い換えれば、小説のおもしろさ、楽しさにひたりつつ、そのなかに、現実への意味を見いだそうとするのである¹²⁾。

中国ではいま「楽教楽学」（楽しく教え、楽しく学ぶ）という“愉快教育”、“楽園教育”を模索している。しかし、私は、楽しい雰囲気を作り、教育手段を多様化するなどということよりは、子どもが進んで学んでいく意識を育て、学ぶことの楽しさを味わえる授業を実現することが大切だと思う。授業プランでは、子どもの興味をどう引き起こし、子どもがどう楽しみ、なにを発見するかを明らかにしていくべきだ。

知識をどう探究したらよいかを教えることは、知識そのものを伝えることよりもはるかに重要だ。よく言われているように、「人に魚を与えれば、これ

¹²⁾ 広瀬節夫『子どもの読みを育てる文学の授業』（溪水社）1997年、2ページ。

はただ一食の求めを満たすだけだ。人に漁の仕方を教えれば、一生貧乏することはない（授人以魚，只供一飯之需；教人以漁，則終身受用無貧）」。

子どもが発見の喜びを味わうことは教師の中で大きな位置を占めている。発見するための知識や意志、感性などを養うのが学習だ。この学習が、個性ある考え方や創造力の基礎になるのだ。

発見を重視する教育の方法としては、教師は様々な問い掛けや討論によって、子どもがどこまで理解したかを確かめることができる。問いかけを通じて、隠された問題を探っていこう。こうした指導で、子どもたちを緊張させたり、考えさせたりしたい。

ところが、現実には設問を急いだために、指導につまずく教師は少なくない。

『手術台は陣地だ』という戦時中の状況を描く教材がある。日本軍の爆弾が臨時病院になった小さな寺の周囲に落とされた。屋根から瓦が落ち、「手術室」の入口にかけられている布に火花が散り、炎が手術台に迫ってきた。しかし、カナダから援助に来た白求恩医師は手術を続ける。ある教師はここで子どもに質問した。「先生は何故手術台を離れないのですか。先生には、時間が何を意味していたのですか」と質問した。その時子どもはみんな「時間はお金です！」と口を揃えた。無邪気な子どもたちに、教師はしばらく声も出なかった¹³⁾、という。

教える際、比較、対照が重要だ。比較によって、理解が深まり、印象が明らかになる。設問は子どもの思考を促すことができ、作品の理解を深めるのに大きな役割を持つ。見逃しがちな箇所を取り上げて、子どもの注目を引きつける一方、設問そのものは、またどのように作品を読むのかを暗示することもできる。子どもは問いにもとづいて考え、理解する。教師が説明する時

¹³⁾ 毛文宝「時間不只是金錢」（『文匯報』），1989年12月16日（董遠賽等編「值得深思的偶發事件」，『教学火花集——十二年来創造的教例400例』，人民教育出版社，1993年，218ページ再引用）。

間を節約できるだけでなく、子どもが自分で問題を分析し、解決する力を伸ばすこともできる。

適切な設問は授業を活発にする。子どもが自分で考えたことを教師が取り上げるのは、子どもには楽しいことだ。自分では思いつかなかつたり、不十分だったり、教師の説明で、はっと思い付くことがある。その発見は大きい。適切な設問が、子どもの意欲を高め、よく考え、問題を解決する能力を育てることができる。

孔子は「知る者は好む者に及ばない。好む者も楽しむ者には及ばない（知之者不如好之者，好之者不如樂之者）」という。子どもは学習を通じて、自分で課題を見つけ、考え、判断し、解決して、発見の喜びを味わう。問題のとらえかたを変えるだけで、まったく違う形で見えてくる楽しさを味わうことができる。

葉聖陶は、「教えることは教えないためだ（教是為了不教）」、「教えることは教える必要を無くすためだ（教是為了不需要教）」¹⁴⁾と言っている。知識を伝えるだけでなく、知識を獲得する方法を教えることが大切だ。子どもが進んで学ぶ能力、興味を育てるのが教育だ。

語文教育の目的は発見の喜びを味わうことだ。これは教師の指導によって実現することではなく、子どもが自分の力で実現することだ。教師は教材を選び、指導案を工夫して、子どもが学習によって喜びを味わえるよう努力しなければならない。教師が“教え”，子どもが“教えられ”るのは教育ではない。教師と子どもは一緒になって、発見する喜びを実現するのが教育なのだ。

4 教材の扱い方

語文の教材は、子どもの豊かな人間性と情感を育てるのに、大きな働きを持っている。

¹⁴⁾ 葉聖陶（『光明日報』，1983年6月8日記事再引用）。

描写方法、技巧などを説明するだけではなく、作品世界を理解させなければならぬ。作品そのもので、子どもの感性を磨きたい。

ある教師が語文授業の効果について、生徒にアンケートした。生徒は次のような意見を述べた。

我々は先生の決めつけた枠と標準的なラベルで本文の思想内容を概括し、登場人物を評価したくない。我々の理解している登場人物はしばしば教師が出したラベルと食い違っているからだ。我々は嘘っぽい、悪い、醜いことを資本主義制度の必然性と結び付けることを聞きたくない。逆に、我々は『一杯のそば』の笑い声を通して、資本主義制度のもとでも、善意と文明が存在していることを読めた。『ネックレス』を読んだ時、我々はロワサの悲劇を造った根源はブルジョア階級思想の影響だと思わない。マテエルの虚栄心、彼女と同じ状況にいる女性は、だれでもあるのだ。それは当然のことだ。実際、ロワサ夫人は大変誠実な人だ、と思うが、……（我們不願听老師用已經定好了的框子和標準的標籤去概括課文的思想內容，去評價人物形象，因為我們眼中的人物形象常常与老師亮出的標籤對不上号，我們不願听假惡醜与資本主義制度的必然性聯係，相反，我們透過《一碗陽春面》里的笑声，看到的是在資本主義制度下，也同樣存在着友善和文明。讀《頸鏈》時，我們沒有發現造成路瓦裁夫人悲劇的主要根源是資產階級思想的毒害，瑪蒂尔德的虚栄心，每一個与她处境相似的女人都会有，這很正常，其實，路瓦裁夫人是一個很誠實的人……）¹⁵⁾。

作品を十分理解しているかどうかを別として、子どもは、語文授業の問題を指摘し、文学作品に対する自分なりの理解を示してくれた。

語文の教材は現在北京人教版、上海H版、S版など全国では10種類を下らない。しかし、教材を選ぶ権利がない語文の教師は、教材を自由に読み、深く理解することがとりわけ重要になっている。

¹⁵⁾ 温徳峰「一種值得青年教師警惕的現象」、『語文教学通訊』（語文報社）、1996年11月、51ページ。

魯迅の『祝福』を読むとき、登場人物祥林嫂の悲惨な境遇を階級的な観点で分析し、“反抗”の意義だけを強調しなくてもいい。人間性の立場から、悲惨さを味わい、主人公の苦しみを知らることができればよいのではないか。そのような作品を幾つも読んでいくうちに、世の中の複雑さ、不合理な現実を知り、人間と社会の様々な状況を学んでいく。

『祝福』では、主人公の愚かさ、主人公の迷信深さが、世間に旨く対応できなかったことが描かれている。こうした悲惨は本人にも責任はあるものの、世間の冷たさ、社会の残酷さに根ざしていると理解してもよい。しかし、社会を悪いものとするだけではなく、人間の愚かさを社会の冷酷さとあわせて考えられるようにしたい。

月夜の蓮の池に漂う美しさを描いた朱自清の『荷塘月色』を読む時は、朦朧とした、物静かで、優雅なムードを味わえればいいと思う。この作品の書き手の「現実には不満で、また現実から逃げ出す幻想的で、淡々とした哀愁」をなんとしてでも読み出さなければとがんばる必要はないのではないだろうか。月に煙る蓮の池の情景が見えてくれば十分だと思う。

『向砂漠進軍』の作品の場合は、砂漠の恐ろしさを取り上げ、人間が破壊する自然による復讐の様子が描写されている。この“復讐”をなにも社会制度がもたらす災害と読む必要はない。

優れた作品は、人を励ますものだ。面白いだけでなく、胸打つ感動を与えてくれる。作品と読み手の間には会話が成り立つし、読み手は想像の世界に遊ぶことができる。いい作品を読み終えた後の満足感は、何物にも代えがたい。

文学作品は優れた表現で出来事や登場人物などを描く。文学作品を読むのは、感動したり、楽しんだりするためだ。その作品を論じる時も、その作品から感じた魅力について語る。主題にとらわれることはない。作品を読む本来の楽しみが大切なのだ。

優れた作品は特別な世界を持っている。その世界を読むことで読み手は大きな感動と感銘を受ける。作品を読むことはその世界を掘り下げることだ。

作品を語句、主題、段落分けなどで解剖するだけのことではない。

優れた文学は、分かりやすい表現、美しい言葉を使って、感動させる文章になっている。教材としてその素晴らしさが味わえるような指導を実現したい。